

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	高齢者・障がい者等居住小委員会	主 査 名：蓑輪 裕子 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画本委員会（住宅計画運営委員会）	委員長名：菊地 成朋 主査：定行まり子
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・目的 高齢者・障がい者等（以下高齢者等）が地域で安心して住み続けられる、居住環境および生活支援のあり方に関する研究活動を行う。 ・活動計画 初年度：高齢者・障がい者等の地域居住に関わる現状や動向の整理、4 年間の活動計画の検討、被災地において高齢者等の地域居住の現状と課題の把握、復興計画の課題とあり方の検討、公開研究会開催 2 年度：高齢者・障がい者等の地域居住に関わる新たな動向の把握、被災地の復興における高齢者等の地域居住の現状と課題の把握、公開研究会開催 3 年度：高齢者等の地域居住を可能にする居住環境と生活支援のあり方についての検討、上記成果をもとにした公開研究会の開催 4 年度：上記の実現のための施策、制度についての検討、成果をもとに公開研究会の開催	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：2012 年度当初に 3 名を公募。 蓑輪裕子（聖徳短大）、野口祐子（聖学院大）、阪東美智子（国立保健医療科学院） 石井敏（東北工業大）、生田京子（名城大）、岡部真智子（静岡英和学院大）、 上和田茂（九州産業大）、佐藤由美（大阪市立大都市研究プラザ）、 鈴木健太郎（杏林大）、番場美恵子（昭和女子大）、山田義文（東洋大）、 山本和恵（東北文化学園大）、角本邦久（千葉職業能力開発短大）、 西野亜希子（東大大学院）、福西保夫（株式会社木匠）	
設置 WG (WG 名：目的)	〔在宅ケア環境 WG〕：高齢者等の居住環境のあり方についての研究会の開催 〔高齢者居住 WG〕：高齢者等の居住に関する先進的な事例調査の実施	
2012 年度予算	185,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：なし

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	・公開研究会「被災地の高齢者・障がい者の暮らしと住まい～新潟県中越地震の経験から東日本大震災を考える～」2013 年 2 月 19 日 参加数 26 名 資料名 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 被災地における高齢者等の地域居住の現状と課題の把握、復興計画の課題とあり方の検討：石巻市の社会福祉法人等と宮城県庁を訪問し、仮設住宅に住む高齢者等の生活状況や復興住宅への移転状況等について把握した。また内部の研究会で、福島県と岩手県の仮設住宅に住む高齢者等の居住環境の課題を把握した。さらに公開研究会において、新潟県中越地震での高齢者等の居住状況や東日本大震災における千葉県旭市の取り組みを把握した。これらを通じて、被災地における、高齢者等の抱える課題と支援の方向性を検討した。 2. 高齢者・障がい者等の地域居住に関わる現状や動向の把握：宮城県の居住支援団体に視察に行き、民間賃貸住宅を活用した障がい者等のための居住支援の実態を把握した。
委員会活動の問題点・課題	1. 被災地の仮設住宅や計画中の復興住宅に関して、高齢者・障がい者等が抱えるさまざまな課題が明らかとなっているが、改善方策の実現に向けた取り組みはいまだ不十分である。さらなる実態の把握や、具体的な対策の実現に向けた関連組織との連携等が必要とされている。 2. 研究会・見学会の日程調整が難しく、参加人数が限られてしまった。委員間で容易に情報の共有が図れるよう工夫していきたい。ホームページの設置を検討していたが、初年度は作業に取り組みなかった。次年度は計画的に取り組みたい。